

長谷川豊祐（鶴見大学図書館） toyohiro@mub.biglobe.ne.jp

抄録 1970年以降，図書館サービスが推移してきた大きな傾向を明らかにする。『図書館情報学研究文献要覧』（1970年-2006年）に収録された雑誌記事データによって，13項目の大項目分類における記事件数の経年変化を分析した。各分類の記事件数では，「図書館資料」，「図書館総記」，「図書館活動」，「情報サービス・情報管理」の順番で多くなっている。各分類の推移では，増加は「情報サービス・情報管理」，「図書館活動」，減少は「図書館資料」など，大きな推移の傾向が明らかになった。

1. 背景と目的

情報通信技術の発達や社会環境の変化による影響で，図書館のサービスや業務内容は大きく変化している。今後の図書館運営の向上に資するため，サービスの方向性や業務改善の内容を検討しなければならない。検討に際しては，サービスや業務の全体像と，変化の概要を把握する枠組みを設定する必要がある。

本研究の目的は，1970年から2004年までの図書館・情報学に関する雑誌記事の発表件数を分析し，35年間にわたって図書館のサービスや業務内容が推移してきた大きな傾向を明らかにすることである。

2. 分析データの整備と分析方法

1) 分析用のデータ

分析には『図書館情報学研究文献要覧』¹⁻⁴⁾（以下，要覧とする）に収録された図書館・情報学に関する雑誌記事データを，日外アソシエーツ（株）より入手して用いた。要覧は1970年から2006年（本研究では便宜的に冊子の4冊に対応して1期から4期とする）に発行された73,598件の雑誌記事を収録している（表1）。要覧には図書と論集の内容も収録されているが，今回は雑誌記事のみを対象とした。

要覧1期と2期は，『図書館学会年報』の別巻である『図書館学年次文献目録』を累積している。要覧3期と4期は，日本図書館情報学会文献目録委員会が編纂した『図書館情報学文献目録データベース』と，日外アソシエーツで運営しているデータベース『MAGAZINE PLUS』から採録している。

編集や採録の方法の変更により，3期-4期の収録対象誌は1期-2期より倍以上に拡大し，雑誌記事の収録件数も増加した。

表1 要覧の収録件数

	収録年	収録対象誌数	収録件数	年間収録件数
1期	1970-1981	548	14,987	1,249
2期	1982-1990	647	14,923	1,658
3期	1991-1998	994	17,285	2,161
4期	1999-2006	1,770	26,403	3,300
計	1970-2006		73,598	1,989

2) データの整備

4期間で異なっているMARC形式のレコード構造を調整して，エクセル形式のデータに変換した。データ項目は，文献番号，著者名，論題，雑誌名，巻号，刊行年月，頁，分類（大項目，中項目，小項目，細分）とした。

分類の例：

情報サービス・情報管理	大項目
└ 情報化社会	中項目
└ マルチメディア	中項目
└ 電子書籍	小項目
└ 電子ジャーナル	小項目
└ 導入	細分
└ 運用	細分
└ オープンアクセス	細分

最新の4期の分類の名称に合わせて、それ以前の1期-3期の分類を修正した。4期間を通して分類の構造と名称を一貫させるため、中項目の「資料組織；ドキュメンテーション」を大項目の「情報サービス・情報管理」へ、同様に「一般図書館；国立図書館」を「国立図書館」へ、「一般図書館；公共図書館」と「一般図書館；児童図書館」を「公共図書館」へ、「学校図書館；大学図書館」を「大学図書館」へ修正した。

3) 分析対象のデータ

4期に収録されている2007年のデータ、3期から大項目分類として新設された書誌学のデータ、および出版流通のデータを分析対象から除外した。要覧では記事の分類重出がなされているため、件数が二重にカウントされているデータも存在するが、件数的にも全体への影響は少なく、中項目と小項目における重複の調整も困難なため、記事の重複は除外しなかった。

大きな傾向を明らかにするため、1970年から5年毎にデータをまとめて7期間で集計した。2005年と2006年のデータがこの期間に入らないため除外した。最終的な分析対象データは64,294件となった。

4) 分析方法

図書館サービスの推移をみるために、要覧によって雑誌記事に付与されている分類のうち大項目に着目して、13項目に収録された雑誌記事件数の経年変化を、表1として集計した。1991年(3期)以降の収録対象誌の拡大によって、雑誌記事の件数が増加している。その影響を補正するため、件数そのものではなく、その年の全記事件数に占める当該分類の記事件数の割合によって分析した。

3. 分析結果

3-1. 全体の傾向

各大項目における35年間の雑誌記事の収録件数の割合は、収集、資料組織、保存などの「図書館資料」、

「図書館活動」、マルチメディア、情報流通、情報検索などの「情報サービス・情報管理」、

「専門図書館」、

「管理・運営、図書館システム」、

人事管理などの「図書館管理」、

「公共図書館」、

「読書」、

「学校図書館」、

「大学図書館」、

「図書館行政・政策」、

「図書館建築」、

「国立図書館」の順番となった(表2)。

3-2. 個々の分類における傾向

個々の大項目における記事件数の推移の傾向を4種類に分けることができた(表2)。

文献数の増加は、マルチメディア、情報流通、情報検索などの「情報サービス・情報管理」、利用指導、利用者、レファレンスなどの「図書館活動」、

「国立図書館」、

「公立図書館」、

「専門図書館」の5分類であった。「情報サービス・情報管理」では、1970年代は10%以下であったが、1990年代後半まで増加傾向が続き、その後、2000年代には増加傾向が衰えたものの、2000年代も17%台と高い割合を維持している。また、「図書館活動」では、1970年代は12%台であったが、2000年代は17%台に増加した。「国立図書館」と「公立図書館」は、変動しているものの増加傾向であった。

文献数の減少は、「図書館総記」と、収集、資料組織、保存などの「図書館資料」の2分類であった。「図書館資料」では、35年間で記事件数の割合は20%台から12%まで落ち込み、顕著な減少傾向がみられた。

文献数の変動は、「図書館行政・政策」、

「図書館建築」、

「図書館管理」、

「学校図書館」、

「読書」の5分類であった。「図書館行政・政策」と「図書館建築」では、3%から1%の間で変動している。「図書館管理」では、5%から8%の割合で変動している。「学校図書館」と「読書」では1980年代に落ち込みがみられた。

「大学図書館」は、1970年代から1980年代前半は減少傾向であるが、その後、変動せず一定とした。総論や各館種・各館事情がコンスタントに収録され、3%台を維持していた。

3-3. 分析における留意点

1) 記事の内容やページ数による重み付け

今回の分析では、記事の内容やページ数の差を考慮していない。内容やページ数による重み付けをおこなうことは困難なため、数十ページの記事も、1ページに満たない記事も同じ1件として数えた。

2) 収録誌の妥当性

記事の掲載される雑誌について、その性格によって分析対象に含めるか否かを選別し、分析データの均質性を保つことができれば信頼性が高まるが、今回は配慮できなかった。

3) 館種への配慮

館種によって推移の傾向が異なることは容易に推測できる。収録誌の対象分野によって、館種に特化した分析ができれば、館種毎の分析が可能になるが、館種毎の分析は今後の検討課題とした。

4. 考察と今後の課題

図書館・情報学に関する雑誌記事の発表件数の推移によって、図書館のサービスや業務における大きな変化傾向が推測される。以下の2例では、記事件数の増減とサービスの変化の因果関係は明らかではないものの、実務的な感覚では、記事件数の変化がサービスや業務の変化の実態を反映していると考えられる。

1) テクニカルからパブリックへの移行

「図書館資料」の中項目に位置する目録に関しては、目録の利用が増加し、目録に関する議論も活発であるにもかかわらず、目録を作成する体制が弱体化しているとの指摘がある⁵⁾。1990年代までにおける図書館業務の電算化とNACSIS-CATによる目録業務の軽減と、近年における外部委託の進展により、大学図書館では整理業務担当者の割合が低下している。整理業務

の外部化は、公共図書館ではさらに進行している。

収集、資料組織、保存などの「図書館資料」が顕著に減少し、「図書館活動」と「情報サービス・情報管理」が増加したことから、図書館のサービスが、テクニカルサービスからパブリックサービスに移行した状況が確認できた(図1)。

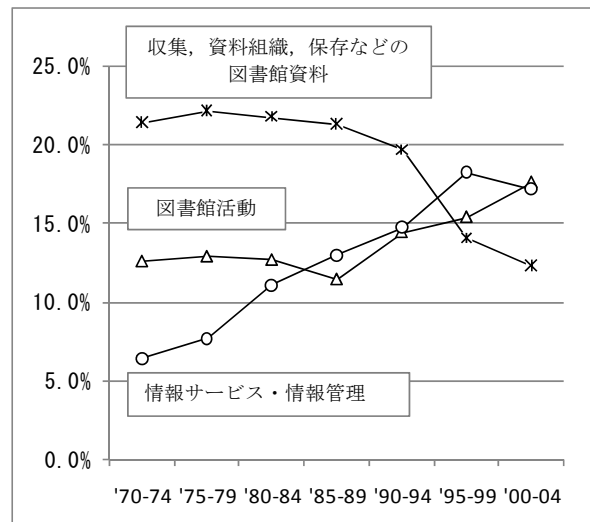


図1 3つの大項目の推移

収集、資料組織、保存などの「図書館資料」を構成する中項目の分類における記事件数の推移は、図2のとおりである。「収集」と「保管・保存」は増加傾向であるが、目録に関連する中項目では減少が大きい。

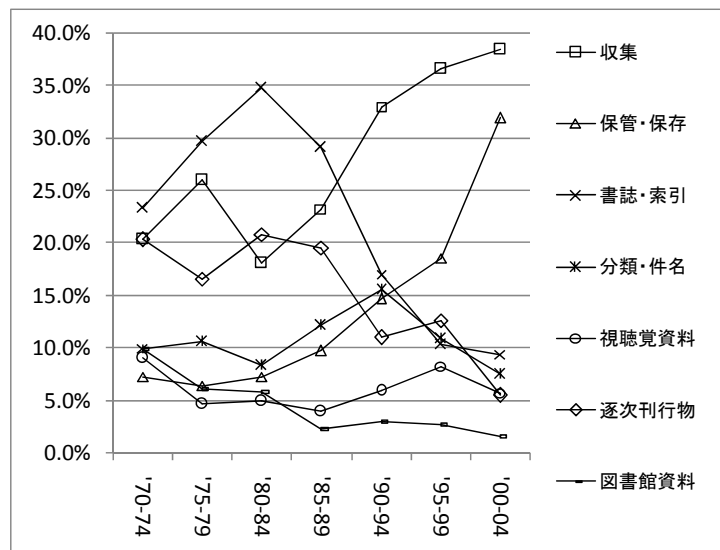


図2 7つの中項目の推移

2) 電子ジャーナルの台頭

小項目による分析の例として、3期から新設

された「電子ジャーナル」に関する396件の記事数推移を取り上げる。現実の電子ジャーナルのタイトル数は、1990年前半の年間300タイトルの増加、1990年後半の年間1,000タイトルの増加、2000年代の年間5千点から1万点の増加である⁶⁾。図3に示すとおり「電子ジャーナル」に関する記事数は、1990年代前半は5件以下、1990年代後半には30件まで増加し、2000年代には40件を超え、現実の電子ジャーナルのタイトル数が増加している状況と一致している。

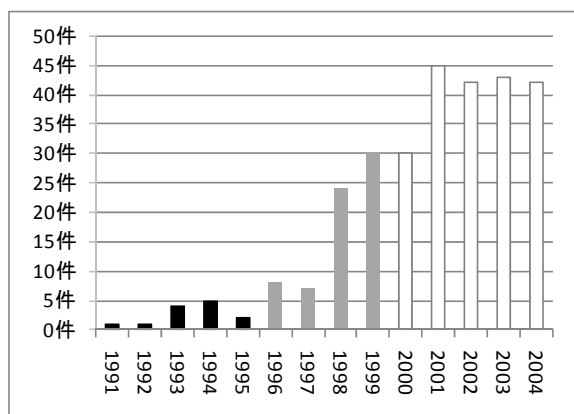


図3 電子ジャーナルに関する記事数

3) 今後の課題

以下の4点が今後の課題として考えられる。

- 1) 図書館サービスや業務の転換点を特定する,
- 2) 館種に限定して詳細に分析する,
- 3) 中項目によって分析する,
- 4) 個々の雑誌について分析する。特に、館種に焦点を絞って転換点を特定することができれば、これまでの図書館サービスの成果や課題を検討する枠組みの設定が期待できる。

参考・引用文献

- 1) 深井人詩, 目黒聰子共編; 日本図書館学会監修『図書館情報学研究文献要覧 1970-1981』日外アソシエーツ, 1983, 590p.
- 2) 日本図書館学会編集委員会編『図書館情報学研究文献要覧 1982-1990』日外アソシエーツ, 1993, 780p.
- 3) 「図書館情報学研究文献要覧」編集委員会編『図書館情報学研究文献要覧 1991-1998』日外アソシエーツ, 2008, 750p.
- 4) 「図書館情報学研究文献要覧」編集委員会編『図書館情報学研究文献要覧 1999-1996』日外アソシエーツ, 2009, 1,010p.
- 5) 上田修一「目録の現在」『図書館雑誌』Vol. 103, No. 6, 2009. 6, p. 373.
- 6) 倉田敬子『学術情報流通とオープンアクセス』勁草書房, 2007, p. 117.

表2 雑誌記事数の5年間毎の推移と傾向

年	図書館総記 (%)	図書館行政・政策 (%)	図書館建築 (%)	図書館管理 (%)	図書館資料 (%)	情報サービス・情報管理 (%)	図書館活動 (%)	国立図書館 (%)	公共図書館 (%)	学校図書館 (%)	大学図書館 (%)	専門図書館 (%)	読書 (%)	計 (%)
'70-74	19.5	2.7	2.8	8.2	21.4	6.5	12.6	0.9	5.2	5.9	5.9	5.2	3.3	100.0
'75-79	22.4	1.8	1.8	5.9	22.2	7.7	12.9	1.2	4.3	5.2	4.0	5.9	4.8	100.0
'80-84	23.1	1.3	2.7	5.0	21.8	11.1	12.7	1.0	3.9	2.2	3.3	8.0	3.9	100.0
'85-86	24.1	1.2	3.4	4.5	21.3	13.0	11.5	2.2	4.4	1.5	3.6	7.0	2.4	100.0
'90-94	14.0	3.0	1.7	7.3	19.7	14.8	14.5	2.0	6.0	3.0	3.5	6.5	4.0	100.0
'95-99	10.6	2.9	1.7	8.7	14.1	18.3	15.4	2.5	5.8	4.9	3.1	8.0	4.0	100.0
'00-04	10.1	2.0	1.7	7.1	12.3	17.2	17.6	2.1	7.7	5.4	3.4	7.6	5.8	100.0
計	16.2	2.2	2.1	6.8	17.7	13.9	14.5	1.9	5.7	4.1	3.6	7.1	4.2	100.0
傾向	減少	変動	変動	変動	減少	増加	増加	増加	増加	変動	一定	増加	変動	